放射能から子どもを守り
１人の被ばく者も出さない

〈日光･放射能から子どもを守る会〉2012.06.29//no.35

広報「にっこう」の「放射能〈ウソ〉知識」！
日光市は、無知ではなく、悪知恵！
放射線は身体を突き抜け危険！

赤10～30万,黄6～10万
緑3～6万、紺1～3万
水色～1万　ベクレル/㎡

地表面セシウム汚染地図
2011.08．02現在換算値
文部科学省制作

私たちは、1カ月前のチラシ〈2012.05.25-No.30〉で、「日光市の広報『**にっこう**』は、去年の震災以降、多くの人が不安な『**放射能**』『**放射線量**』『**汚染**』『**除染**』などの言葉さえ掲載していません。」と、不可解な姿勢を見ました。

今回、広報「**にっこう**」7月号は、初めて、「学ぼう!!放射能に関する基礎知識」を掲載です。しかし、なんと「放射能の危険」を隠し、ウソと誤魔化しで固めた内容です。原子力ムラと言われた政府、電力会社、原発関連企業のお抱え専門家の「原発安全神話」と同じく、「放射能安全神話」です。いくつか、その悪質の例です！

⊛　＊　⊛　＊　⊛

❑「**この間･･さまざまな放射能対策を行ってきました**」

子どもたちの施設など1マイクロシーベルト以上のホットスポットの除染だけです。いや、日光は「水」も「空気」も「食べ物」も安全と、さまざまなイベント開催。TV、ラジオを使い誘客宣伝。観光客には、靴、車で放射性物質を持ち去ってもらったようです。

❑「**放射線は懐中電灯から発生する光**」

放射線は、人間の60兆の細胞を突き抜け、その遺伝子などを破壊する危険があることが、国際的な共通認識です。日光市は、放射線の危険性など知らぬ顔です。
(人間には、これらを修復する力もありますが、人それぞれ限界があります)

❑「**一度に多量の放射線量を受けると人体に影響が出る**」

一瞬に大量の放射線量を浴びれば即死。また、ガンや白血病などの死です。

❑「**短い期間に100ミリシーベルト以下･･･病気になったと言う･･･証拠はありません**」

長期の低線量被ばくは、免疫力の低下を含め、様々な疾病、さらには奇形児などの実例がたくさんあります。チェルノブイリ原発をはじめ、核関連施設･原発周辺、劣化ウラン弾など。「欧州放射線リスク委員会」は、低線量被ばくの危険を警告しています。

❑「**国は放射能防護の観点から･･･**」

『防護』とは、「危険から守ること」で、放射能は、「危険」が前提です。〈➡2P.へ続く〉

日光市の該当するゾーンは？

❑**チェルノブイリ･ゾーン**　❑〈1999.ナスビット論文より〉

①　移住義務ゾーン	5mSv/年以上
②　移住権利ゾーン	1 mSv/年以上
③　放射能管理強化ゾーン	0.5 mSv/年以上

②移住を希望すれば資金など支援
③厳重な放射能汚染対策を実施する地域

❑　**政府の放射能除染基準//毎時0.23μSv**　❑
日常生活で8時間以上屋外活動禁止が前提、内部被ばく除外。成人対象で、妊婦、乳児、子ども、女性など無視。
〈上記基準/参考*ICRP-年間1mSv/公衆被ばく限度基準〉
❖年間0.1mSv/公衆被ばく限度基準欧州放射線リスク委員会
❑**栃木県原発崩壊前/毎時0.038～0.044μSv**❑

日光市放射能汚染分布
2011.10.03-12 調査/日光市
測定地上 50cm

マイクロシーベルト/以上～未満		
0.1 未満	1ヶ所	0.2%
0.1～0.2	155ヶ所	28.8%
0.2～0.3	187ヶ所	34.8%
0.3～0.4	152ヶ所	28.3%
0.4～0.5	30ヶ所	5.6%
0.5～0.6	10ヶ所	1.9%
0.6～0.7	2ヶ所	0.4%
0.7～0.8	1ヶ所	0.2%

*〈ICRP　国際放射線防護委員会〉

News - 日光市は「水」も「空気」も「食べ物」も安全でした〈日光安全だった宣言〉

❑**夏ソバまつり** 07.07～08/**日光だいや川公園**毎時 **0.33** マイクロシーベルト(2012.12.22 県)
日光市の基準は市民1マイクロシーベルト、観光客 0.23μSv(観光部長)といいます?
❑**汚染/中禅寺湖**　ヒメマス 150Bq/kg、ブラウントラウト 220Bq/kg　〈0626 栃木県〉
❑内部被ばく測定器導入/那須町。那須塩原市/導入予定。日光/船村徹記念館40億
❑**福島県人口流出**(3～5月人口移動状況)2011 年/17524 人、2012/9779 人〈総務省〉
日光市も原発崩壊放射能汚染が原因か市内からの流出が目立ちます!!？〈後日紹介〉
❑**海産物汚染**//福島沖の36種(出荷停止)以外心配ない〈0623 毎日〉
しかし、基準値以下でも全ての検査なしでは「安全･安心」につながりません。
❑APEC(アジア太平洋経済協力会議)/米、ロシア、日本などの意向から「原発利用の重要性を強調」。枝野経産相「国際社会では原発を！安全に貢献!」の姿勢!!
❑リトアニア原発日立契約/政府資源エネルギー庁支援！近隣諸国の声?〈06.22 毎日〉
❑金曜/4万超える原発再稼働反対/首相官邸前のうねりの声/目立たぬ極小記事！

☢ 放射能は危険 ☢ 放射能汚染地帯で生活続けるチエ

❑全食品、食材の検査が大事です。行政の責任でやるべきです。
基準値以下でも、特に、子ども、女性、若者には食べさせない。汚染ゼロを!
食べるものは、汚染されていない県、地域のものに心がけましょう。
同産地、同じ食品は食べ続けない。全ての放射線量測定をして安全が確認できない中では、汚染されるものを食べ続けないためのチエです。
❑うららかな春。花壇、家庭菜園、楽しみですが土は汚染されており避けたいです。
もし、やるとすれば、手袋、マスクをしてください。終わった後は、よく手を洗い、うがいをしましょう。服や靴の土･ほこりなどを取ってください。
❑放射能の危険から子どもを守る//高い線量の所には近づかない。マスクをする。
「保養」「一時避難」「疎開」「移住」など考える。相談体制を検討。行政の支援要求。

❖**チラシ･バックナンバー見られます**//PDF　http://atsugichild.web.fc2.com/

〈日光･放射能から子どもを守る会〉tel･0288-26-0130//nairamdal-1871@dream.jp

❑「国際放射性防護委員会 ICRP は、事故後の復旧時・・・1～20ミニシーベルト」

この基準は、年間1ミリシーベルト(一般公衆の被ばく限度 ICRP)を超えた放射能汚染地域を対象にしたものです。日光市は、これに該当しているということです。

〈市は使ったことない字なのか間違えています「国際放射性防護委員会」『放射線』〉

❑「国では最も低い年間1ミリシーベルトを除染の長期目標として選定」

政府の除染計画、毎時 0.23 マイクロシーベルトは、年間1ミリシーベルト(一般公衆の被ばく限度 ICRP)を参考に決めました。しかし、「これ以下なら安全」ではありません。

原発近郊の高濃度汚染地域は、除染がすぐ進まないため、長期目標を前提としています。日光市は当てはまりません。もし、該当するとすれば、日光市は原発近くの地域と同等の高汚染地帯になります。除染をやりたくないだけです。

❑「年間1ミリシーベルトは・・・毎時 0.23 マイクロシーベルト」

政府は、「国際放射線防護委員会」の一般公衆の被ばく限度を利用しながらも、少しでも除染費用を削減するために考案した数値です。本来なら、様々な生活(屋内屋外時間)をしている人を考慮して、1ミリ=1000 マイクロを365日×24時間で割った数値(毎時 0.114 マイクロシーベルト)とすべきでした。これ以下も安全ではありません。

◎ ＊ ◎ ＊ ◎

❑「日光市の放射線量は、毎時 0.10 未満～0.40 マイクロシーベルト」

日光市は、2月～3月に市内の放射線量を測定。結果は、昨年10月の測定値を平均で24%減少しても何の疑問を持ちません。日光の放射能は「安全」で、さらに、「急激に減少」です。実は、アスファルト道路上の測定では、風に飛ばされ、車のタイヤで持ち去られ、放射性物質が移動した現象を知らぬ顔です。そして、汚染状況を少なく見せ、除染対象地域の策定です。〈参照 2012.04.20no.26〉

日光市の放射能汚染線量を推定すると、2011 年 10 月の線量は、原発崩壊汚染から半年以上経ち、アスファルト道路上の測定値は、補正で 1.2 倍(文科省補正値参考)必要です。その数値から、4～5 カ月後の 2～3 月の測定結果は、セシウムが 5～6%減少したと考えられます。市の測定した線量よりは、ずっと高線量のままです。

❑「被ばく線量を低減する・・・除染」

除染は、山林も含めて全ての汚染地域を対象としない限り、風が吹けば放射性物質を巻き上げ線量が上がり、日常生活の放射能被ばくの危険は続きます。

❑「子どもが長時間生活する…」

子どもにとっては危険を認めているかに見えます。他の市町では、昨年から除染です。しかし、日光市は、今も、1マイクロシーベルト以下なら問題ないとの姿勢です。

❑幼児、子どもなどは、日光市内に5年、10年‥住み続けると健康への危険が高まる no19
❑日光市内観光業者は、東電(政府)から損害賠償金56億6千万円受理(03.05 時点) no21
❑日光の線量値、3月9日からなぜかグ～ンと低下-文科省、高精度測定器自動化で?no21
❑日光市放射能汚染分布(2012.02-03) アスファルト測定で平均線量24%減少と誤魔化し安全宣言！日光のセシウム合計は半年で約7%減少し、それ以外は移動しただけ！no.26
❑井戸水検査OK-だいや川公園内-日光ブランド情報発信センター放射線検査室 no.33

放射能汚染地帯で健康で生き抜くチエ-4

市は市民の健康など無視、家庭菜園は協力して検査を！

栃木県の農産物などの食品汚染検査目的は、県民に「安心」をアピールのため政府の指示で実施です。ですから、農産物などの検査は、各市、町でそれぞれ1点、各地区のJA（農協）の協力を得ます。この検査で「検出せず」「適合」で信用できますか？

日光市は、家庭菜園をする人が大勢いますが、土壌の細かな測定を行おうとせず、説明も注意もアドバイスもありません。「心配なら自分で検査しろ！」との姿勢で、市民の不安に応えようとしません。ぜひ、身近な人と協力して、日光だいや川公園の日光ブランド発信センター内の測定所(市は秘密に？看板・紹介なし)で検査をしてください。

汚染地帯産のものか自己防衛に貴重な情報！！

「産地表示」、悪質偽装？ずさんな管理？単純ミス？では許されない!!

週に1～2度行くスーパー「サンユー大沢店」、ここ3週間程の間に4度、野菜の産地表示と現物の違いに気付き、係員に指摘すると、表示を変えていました。

今、単なる偽装問題で済まされません。全ての野菜類の放射能検査がされない中では、産地表示は、消費者が自己防衛する唯一、汚染地域産のものか判断する貴重な情報です。一度目は、05.20 ころ、神奈川県産の表示の「きゃべつ」に、追加の箱をみると千葉県産。2度目は、05.27 佐賀県、兵庫県産表示の「新玉ねぎ」に、茨城県産。3度目は、05.29 佐賀県産表示の「新玉ねぎ」に、茨城県産。さらに、6 月 11 日、4 度目は、表示が「鹿児島県産」の新じゃが、現物は「長崎県産」の表示です。悪質です。

これら産地偽装の行為は、経営者の意図？働いている人の悪労働条件の結果？

また、他のスーパーでも2つの産地表示の誤魔化しは止めて、消費者の立場に！

チラシ配布から-3　声から多くのヒントがチラシに！！

❖昨年暮れから始めた住宅地へのチラシ配布は、最初、「放射能の事を心配しているのですが」と、外に出ている人に声を掛けて手渡すことが、ぎこちなかったことを思い出します。また、なかなか声を聞くことができませんでした。みんな何を考えているのか確信を持てていなかったことと、何か言われてどう対応しようかとの不安もありました。しかし、やっと3月から始めた脱原発の 1000 万人署名をきっかけに、気楽に話せるようになりました。多くの人の声を聞く中で、みんなが言いたいこと、知りたいことなどが見えてきました。その中にチラシ掲載のヒントが隠されています。自然体で言いたいことを言い、気楽に話せるようになってきた気がします。それでも心に突き刺さる声があります。たくさんのチエ者が付いています。それは、配布で回って話す人たちです。